

<長野県岡谷市の取組>

【統合による魅力ある学校づくりの取組モデル】

○統合を契機に地域資源を活用した独自のカリキュラムを開発した例

1. 市町村の概要

◆人口：49,413人（平成29年5月1日現在）

◆小学校：7校，児童数2,609人 ◆中学校：4校，生徒数1,308人

※学校数，児童生徒数は平成29年5月1日現在

◆市町村全体の学校の統合・存続の状況

学校施設の耐震化事業を進めていたところ，岡谷小学校敷地内の地盤に課題があることが判明し，現地での学校存続を断念せざるを得なくなった。そのため，平成25年5月から「岡谷小学校あり方検討委員会」を立ち上げ，平成26年7月に岡谷小学校，神明小学校，岡谷田中小学校の統合方針の決定，同年9月には「学校統合委員会」の設置がなされた。その後，平成27年12月に岡谷市立学校設置条例の一部を改正する条例が制定され，平成28年3月31日に岡谷小学校を閉校，神明小学校及び岡谷田中小学校に分離統合し，現在に至っている。

2. 研究タイトルと研究課題

◆研究タイトル

岡谷小学校統合を契機とした魅力と活力ある学校づくり
～地域資源を活用した「岡谷『ひと・もの・こと』教育の構築」～

◆研究課題

- ①統合後の学校が新たな学区の地域コミュニティの核として高い教育機能を発揮するための方策に関する研究
- ②統合を契機とした学校運営システムの抜本的改革に関する研究
- ③統合を契機とした魅力的な学校づくりに関する先進的な取組

3. 調査研究対象校の状況

◆調査研究対象校

岡谷市立神明小学校（18学級，433人）

岡谷市立岡谷田中小学校（17学級，425人）

◆調査研究対象校を統合することとした背景・理由

- ・岡谷小学校の敷地が軟弱盛土であることが判明したことにより，現地での存続を断念せざるを得ないという状況が生じたため。

◆統合に至るまでの過程

- ・調査研究対象校の統合を決定するまでの期間 1年2ヶ月
- ・統合を決定してから開校に至るまでの期間 1年8ヶ月
- ・開校年度：平成28年度
- ・統合の状況：岡谷小学校を神明小学校と田中小学校に統合

◆統合による学校の教育環境の変化の状況

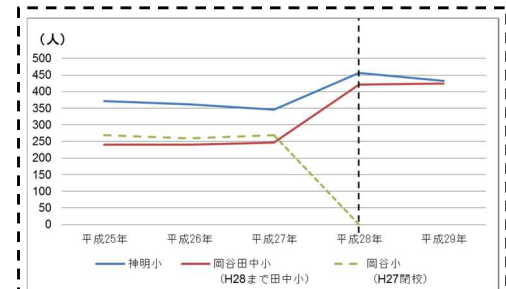
- ・児童生徒の通学状況の変化・・・スクールバス1台運行
- ・施設整備の状況・・・旧田中小学校の校舎改修・教室増設
- ・地域との連携の状況・・・コミュニティスクールの充実により，学校支援を目的として活動する地域ボランティアの参画の増加，地域で学校を支える体制の充実

◆調査研究対象校の位置



閉校した岡谷小学校は，中央東線の岡谷駅から直線で約1kmの山裾の高台にあり，統合先の神明小学校と田中小学校（統合後，岡谷田中小に名称変更）は，岡谷小学校からは直線で約2kmの距離に位置している。

◆対象校の児童生徒数の推移



4. 本調査研究において取り組んだ内容

◆岡谷スタンダードカリキュラムの構築と推進・拡大

本市にはシルク（生糸）や製糸業とともに、製造業「ものづくり」の精神が受け継がれている。この度の学校統合を契機に本市の歴史や文化、教育、産業などの地域資源を再確認し、岡谷市で育つ子供だからこそできる学び、具体的には「ものづくり学習」を普遍的に学ぶ学習カリキュラム「岡谷スタンダードカリキュラム」を開発した。平成 28 年度からは統合校である神明小学校、岡谷田中小学校を、開発した「岡谷スタンダードカリキュラム」実践のモデル校に指定し、市内 11 校への拡大を図った。

市内への拡大に当たっては、長野県教育委員会から学校統合に取り組むために配置された統合企画教員（活力ある学校づくり中核教員）が中心となり、以下の取組を行った。

（教材研究シートの作成）

新たに岡谷市に着任した教師でも岡谷スタンダードカリキュラムの実践ができるように本市の「ひと・もの・こと」に関する素材について教材研究した事柄を 1 枚にまとめたシートを作成・公開した。

（総合掲示板の設置）

岡谷スタンダードカリキュラムを実践した教師の気付き（成果や課題、疑問等）を相互に共有できるように WEB 掲示板を設置した。

（カリキュラムマネジメント表の作成）

各教科等の単元のつながりを示したカリキュラムマネジメント表を作成・公開し、教師が岡谷スタンダードカリキュラムを、教科等を超えて捉えることができるようにした。

（小中連携プログラムの作成）

小学校で学習する岡谷スタンダードカリキュラムが中学校のどの学びにつながっていくかをまとめ、中学校においても岡谷スタンダードカリキュラムの実践が展開できるようにした。

◆ものづくり体験学習（多脚ロボットを用いたプログラミング学習及びロボット製作）の推進

ものづくり岡谷の特徴を活かし、理数教育への誘い、探究心や知的好奇心を育む「ものづくり体験学習（多脚ロボットを用いたプログラミング学習及びロボット製作）」を、平成 27 年度の学校統合前に市内企業の協力により第 4 学年児童が履修し、その後、平成 29 年度まで 1 学年ずつ授業実践を拡大した。本市ならではの学習を通じて、「岡谷のものづくり」への関心を高め、ふるさとを愛する心の醸成と、ふるさと回帰の心を育んだ。



【プログラミング】



【多脚ロボット】



【たわしロボット製作】



【はんだ付け体験】



【電卓の中を確認】

5. 研究の成果と今後の取組

- ・「岡谷スタンダードカリキュラム」を開発することで、岡谷だからこそできる学び、大切にしたい学びを具現化することができ、本市としてこれからの未来を生きる子供たちを育てていく基礎を構築することができた。
- ・地域で子供たちを育てるという機運が高まり、学校支援ボランティアが増加しコミュニティスクールの取組が充実した。＜岡谷田中小 H27：33 人→H29：160 人 / 神明小 H27：62 人→H29：91 人＞
- ・本市の新規事業「ふるさと岡谷に学ぶ学習の推進事業」に位置付け、ものづくり体験学習や岡谷スタンダードカリキュラムのさらなる実践、拡充を行う。また、県教育委員会から地方自治法に基づく派遣により、当教育委員会事務局に指導主事を迎え、児童生徒の学力向上に向けた取り組みとして継続する。

6. 学校の統合に課題を抱える自治体へのメッセージ

- ・学校統合は、学校の在り方そのものに加え、地元の歴史や文化、教育や産業などの地域の力を見つめ直すチャンスであり、域内の学校すべてが、新たなスタートを切るよい機会となる。
- ・県教育委員会から学校統合に取り組むための統合企画教員が配置されたことによって、当該教員が子供・保護者・地域・市教育委員会とのつなぎ役となって、きめ細やかな対応ができた。また、教職員の負担軽減などの効果も生んだ。そのほか、当該教員が教育委員会事務局で業務を行う日を設けたことで、市教育委員会との連携もスムーズになった。このように加配教員の存在が統合成功の大きな要因となる。